

「CKD」として腎臓内科に紹介受診される患者様へ

慢性腎臓病（CKD）はゆっくりと進行する腎臓病です。原因としては糖尿病や高血圧、慢性腎炎などがあげられます。もともと腎臓の働きは加齢でも少しずつ低下するので高齢化が進む日本では透析治療が必要になる人が増えています。

また、腎臓の働きが低下しても透析が必要なほどになるまでは自覚症状がでないのも大きな特徴です。いったん低下してしまった腎臓の働きが回復することは難しいです。

従って、CKDに対しては早期の発見と対策が重要で、そのためにはかかりつけ医と腎臓専門医の双方による治療が大切です。

腎臓専門医を受診することで、より専門的な医療が必要かの判断をしてもらったり、お薬の調節、生活習慣のアドバイスを受けることができます（おくすり手帳をお持ちの場合には必ずご持参ください）。

